

『英国学校制服コレクション』

石井 理恵子／著 新紀元社（2020 年）

制服は好きですか？受験生のみんなは志望校の制服、憧れますよね。この本では制服の発祥と言われるクライスツ・ホスピタルからパブリック・スクールの代名詞イートン・カレッジ、スーパーやデパートで買える公立校の制服まで、数多くのイギリスの学校制服の写真が載っています。カンカン帽でおなじみのハロウ・スクールのネクタイは今わかっていなくても87種類を超えているとか。選ばれた者しか着用が許されない制服や試験の時に着る制服など、びっくりすることがいっぱい。楽しんでみてね。



『シャーロック・ホームズの鉄道学』

松下 了平／著 JTB（2004 年）

世界で最初に鉄道が走ったと考えられている国はイギリスです。1825 年にストックトン・アンド・ダーリントン鉄道が開通しました。その後、鉄道の発展は進みロンドンへ鉄道がつながります。では、イギリス生まれの名探偵「シャーロック・ホームズ」を知っていますか？鉄道が発展したことで、犯罪捜査にも鉄道が使われるようになりました。助手が記録したホームズの知識リストには、鉄道に関する知識は記録されていません。名探偵の鉄道の知識はいかほどか、探りをいれてみましょう。



『異国の味』

稲田 俊輔／著 集英社（2024 年）

日本では、世界中の料理を気軽に食べることができます。しかし、それは日本人好みにアレンジされた料理であって、本場で食べられている料理とは違いがあります。例えば、イタリア料理として親しまれているパスタ・カルボナーラは、日本では生クリームがベースで卵黄やベーコンが加えられていますが、本場では全く違う材料で作られています。本場の料理はどのようなものか、料理人の視点で語られる食のエッセイ。読んでみると、だんだん各国の料理が食べたくなくなってくること間違いなし！



『知られざるマヤ文明ライフ 生贄だけじゃない！え？マヤのピラミッドは真っ赤だったんですか！？』

譽田 亜紀子／著 スソ アキコ／イラスト
寺崎 秀一郎／監修 誠文堂新光社（2023 年）

マヤ文明は現在のグアテマラ、ベリーズ、エルサルバドル、コスタリカ周辺を含むメソアメリカといわれる古代都市文明圏で興り、約2000年にわたり^{おこ}繁栄していました。日本の縄文時代から室町時代にあたります。鉄器はなく、石を加工して生活していました。この本は古代マヤの日常をわかりやすいイラストと写真で解説しています。マヤの世界観に触れてみませんか？



『ミセス・ハリス、パリへ行く』

ポール・ギャリコ／著 亀山 龍樹／訳
KADOKAWA／角川文庫（2022 年）

1950年のロンドン。夫を亡くしたミセス・ハリスは腕のいい家政婦です。ある日勤め先の男爵夫人の衣装戸棚で、ディオールのドレスに出会います。その華やかさ美しさに魅せられたハリスは、フランスヘドレスを買いに行くことを決意します。3年かかってなんとかお金を貯め、パリのディオールの本店に行きます。サテンやタフタ、レースなどでできた最高級で完璧なドレスと、そこで出会った人たちを幸せにしていこうとミセス・ハリスの人柄に魅了されてください。



『ヴェルサイユ宮の聖殺人』

宮園 ありあ／著 早川書房（2021 年）

この物語の舞台は、1782 年のフランスです。ある日、マリー＝アントワネットの元総女官長、公妃マリー＝アメリーは、自室で演出家のブリュネルが殺されているのを発見します。そのそばには、陸軍大尉のボーフランシュが倒れていました。公妃の提案で、公妃と大尉は2人で協力してこの事件の解決に乗り出すこととなりました。果たしてこの謎を解き明かすことはできるのでしょうか。フランスの暮らしや文化に思いを馳せると同時に、ドキドキハラハラのミステリーもお楽しみください。



他にもあるよ こんな本

- ・『世界に通じる
マナーとコミュニケーション』
横手 尚子・横山 カズ／著
岩波書店（2017 年）
- ・『漢字が日本語になるまで』
円満字 二郎／著 筑摩書房（2022 年）
- ・『全201カ国&地域
おうちで作れる世界のおやつ』
本山 尚義／著 廣済堂出版（2023 年）
- ・『ピラミッドの建て方』
柏木 裕之ほか／著
実業之日本社（2013 年）
- ・『世界の国歌』
国歌研究会／編
ワニマガジン社（2006 年）
- ・『バルザックと小さな中国のお針子』
ダイ・シージエ／著 新島 進／訳
早川書房（2002 年）
- ・『「紙の温度」が会った
世界の紙と日本の和紙』
紙の温度株式会社／著
グラフィック社（2022 年）

面白い本は
見つかったかな？

次回も
お楽しみに！！



とっぴー

富田林市立図書館

2025年 11月 発行

YA通信

第78号

テーマ

世界の国々の
暮らしと文化

